

乗円寺 寺報

2022年 9月

秋のお彼岸&報恩講号
寺報から訊く 寺報No35

報恩講・永代経 (本堂)

10月

4日(火) 5日(水)

11:00~

スケジュール

11:00~ お参り
報恩講・永代経のお参り

11:30頃~ 法話

4日

「知恩報徳の願いに生きん」

講師：順教寺 細川 公英 師

5日「伝えていきたい

真宗の教え 入門編」

乗円寺 住職

12:00頃~ お斎

※5日法話後、納骨堂お参り

● 本年度の報恩講・永代経勤めについての案内 ●

当寺報恩講・永代経の勤めですが、令和2年より新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、規模を縮小し実施してまいりました。まだ予断は許さない状況ではありますが、少しずつ平時に戻っていきけるよう祈りつつ、本年度は、両日開催とさせていただきます。まだ、僧侶方に大声で唱和いただくお参りは相応しくないと判断し、僧侶方の人数を制限しお参りします。また、本年度はお斎(おとき・お寺ごはん)を2年ぶりに準備しようと思えます。少し形を変えまして、その場で食事されてもいいし、お持ち帰りいただいてもいいように、準備をしようと思えます。お昼ご飯、夜ご飯にお召し上がり下さい。(コロナが高まったら、中止します) 本年度、乗円寺報恩講のお参り、ご都合のつく方は、一緒にお参りいたしましょう。(住職)



百聞一見 講話&説明会 開催いたしました!

7/18(月)当日の様子はQRコードを
スマホで読み込むことで確認出来ます。



三橋先生のお話



住職説明
乗円寺本堂での
お葬式・合祀墓建立
について

~儀式 亡くなられた方々が示す教え~ 三橋尚伸先生

今あらためて確認していきたいことを、共に勉強していきたいとの想いで、百聞一見講座&説明会を開催しました。お馴染みとなった三橋先生のお話は、亡くなられた方へお参りする気持ちの確認、お経や御文に書かれていることの解説を分かりやすくお話いただきました。

乗円寺本堂でのお葬式、永代供養合祀墓建立の説明

住職から、乗円寺本堂でのお葬式、合祀墓建立への経緯、想いを共有させていただきました。もっとお寺を使ってほしいこと。大切にしたいことなど。一部詳細資料は、この寺報と共に郵送いたしました。ご確認ください。

真宗なぜなぜ?チャンネル開設!!!

第1回 お内仏の基本について

第2回 真宗ではなぜお水をお供えしないのか



真宗(大谷派)の様々な疑問を分かりやすく解説するために、乗円寺と共に活動する仲間が作成してくれました!



住職の独り言 & お供えもの

仏事にはお供えするものがいくつもあります。お内仏(お仏壇)、お墓参りなどには、お花や、ローソク(火)、お線香、内敷、お供えものを供えます。よく、どんなものを準備したら良いか、質問されることがあります。以前にこの寺報で、法事の時に準備していくものはご紹介させていただきました(寺報32号)。その他、報恩講、正月などのお参りには、その時に応じて準備していくもの、作法があります。分からない時は、お寺にお気軽にお聞きください。

最近、いろんな事情から、形を変えたり、省略したりすることもあるかと思えます。火が危ないから、ローソクを造りものにする。車がなくなると、なかなか買いにいけなくなったから、しばらく造花にする。



それぞれの事情があり、それぞれ、仕方がなく変えていくこと、もあるかと思えます。変えることになったとしても、その心持ちや作法について、改めて意味や、守ってきた先人たちの願いをぜひ考えてみましょう。知った上で変えていくのと、ただ変えるのでは違うと思えます。

お供えものは、敬いや感謝が形となったもので、これは変えてはいけなもの、ただ「置く」のではなく、「供える」。置くよりも、供えるの方が、丁寧に扱っているように感じます。佛様の世界から願いをかけられ、お守りしていただいていること、日々いただいているご縁、それをしっかりと感じ、感謝しながら、そのお返しとして形になったのが、お供えもの

と思えます。

浄土真宗は、特別な修行を必要としませんし、戒律はありません。よって、私は座禅をしたり、滝に打たれたり、日々修業をしているわけではありません。皆さんと同じ生活をし、お念仏(お参り)を中心として生きています。お念仏は報恩感謝のお念仏と言われますから、しいて言えば浄土真宗の修業は、恩を受けていることを日々確認し、感謝しながら報いていくことです。これがお念仏。日常忘れがちですが、私を含めた欲深い人間にはなかなか出来ないことです。でもそれを自覚し、そうあるうと気にかけて、お参りの場で確認していくことが仏事に縁をもらった者の務めです。

毎日欠かさず、熱心にお参りされているある門徒さんに教えていただいたお言葉。



やらされていると思うと腹が立つ

させてもらっていると思うと

感謝が生まれる

今はお体が悪くなり、なかなかお会いできていませんが、いろいろあった人生ながらも、この言葉を胸にお参りされている姿は、今も私の中で強く印象に残っています。この寺報も読んでくれていると思います。また、一緒にお参りさせていただくことを楽しみにしております。

守り続けていくべきことが難しく、変えていくことも多くなる時代ですが、受け継ぎ、守っていくべきものは共に大切にしていきたいでしょう。合掌